

2023年度

授業進度計画

(シラバス)

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校 歯科衛生学科2年

歯科衛生学科/3年制

(2022年度入学生)

分野	授業科目		授業形態	単位数	時間数	期	1年		2年		3年		
	教育内容	科目名					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	1	科学的思考の基礎	生物学	講義	1	15	前期	15					
	2	人間と生活	教育方法論	講義	1	15	後期		15				
	3		心理学	講義	1	15	後期		15				
	4		人間関係論	演習	2	60	通年	30	30				
	5		社会人基礎講座Ⅰ	講義	1	15	後期		15				
	6		社会人基礎講座Ⅱ	講義	1	15	前期				15		
	7		情報処理Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
	8		情報処理Ⅱ	演習	1	30	前期				30		
	9		歯科英語	講義	1	15	後期				15		
	分野小計			10	210		45	105	0	15	45	0	
専門基礎分野	10	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	解剖学・組織発生学	講義	2	30	前期	30					
	11		栄養と代謝	演習	1	30	後期		30				
	12		生理学	講義	1	15	前期	15					
		小計			4	75		45	30	0	0	0	0
	13	歯・口腔の構造と機能	口腔組織発生学	講義	1	15	前期	15					
	14		口腔解剖学	講義	2	30	前期	30					
	15		歯牙解剖学	講義	1	15	後期		15				
	16		口腔生理学	講義	1	15	前期	15					
		小計			5	75		60	15	0	0	0	0
	17	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	講義	1	15	前期	15					
	18		口腔病理学	講義	2	30	前期	30					
	19		薬理学	講義	2	30	後期		30				
20	微生物学・口腔微生物学		講義	1	15	後期		15					
	小計			6	90		45	45	0	0	0	0	
21	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・社会福祉論	講義	2	30	前期					30		
22		口腔衛生学Ⅰ	講義	2	30	前期	30						
23		口腔衛生学Ⅱ（統計学含む）	演習	1	30	通年					30		
24		衛生学・公衆衛生学	講義	2	30	前期					30		
	小計			7	120		30	0	0	0	90	0	
	分野小計			22	360		180	90	0	0	90	0	
専門分野	25	歯科衛生士概論	歯科衛生学概論	講義	2	30	通年	30					
		小計			2	30		30	0	0	0	0	
	26	臨床歯科医学	歯科保存学	演習	1	30	後期		30				
	27		歯周病学	演習	1	30	後期		30				
	28		歯科補綴学	演習	1	30	前期			30			
	29		口腔外科学・麻酔学	演習	1	30	前期			30			
	30		小児歯科学	講義	1	15	後期		15				
	31		歯科矯正学	演習	1	30	前期			30			
	32		高齢者歯科学	演習	1	30	前期			30			
	33	障害者歯科学	演習	1	30	前期			30				
		小計			8	225		0	75	150	0	0	0
	34	歯科予防処置論	歯科予防処置論基礎	講義	1	15	前期	15					
	35		歯周病予防法Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
	36		歯周病予防法実習Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
	37		歯周病予防法Ⅱ	演習	1	30	通年			30			
	38		歯周病予防法実習Ⅱ	演習	2	60	通年			60			
39	う蝕予防法		演習	1	30	後期		30					
40	歯科予防処置実践実習		講義	1	15	前期					15		
	小計			8	210		15	90	90	0	15	0	
41	歯科保健指導論	歯科保健指導論基礎	講義	1	15	前期	15						
42		歯科保健指導論Ⅰ	演習	2	60	後期		60					
43		栄養指導	講義	1	15	通年		15					
44		歯科保健指導論Ⅱ	演習	1	30	前期			30				
45		歯科保健指導演習	演習	1	30	後期				30			
46		歯科保健指導論Ⅲ	演習	1	30	前期					30		
	小計			7	180		15	75	30	30	30	0	

47	専門分野	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	演習	2	60	前期	60					
48			歯科材料学	演習	2	60	後期		60				
49			歯科診療補助論Ⅱ	演習	2	60	前期			60			
50			歯科診療補助演習	演習	1	30	後期				30		
51			臨床検査	演習	1	30	前期			30			
52			救命救急法	講義	1	15	通年					15	
			小計		9	255		60	60	90	30	15	0
53	専門分野	臨地実習（臨床実習含む）	臨地実習Ⅰ	実習	1	45	通年	45					
54			臨地実習Ⅱ	実習	1	45	通年			45			
55			臨地実習Ⅲ	実習	7	315	通年			315			
56			臨地実習Ⅳ	実習	9	405	通年					405	
57			臨地実習Ⅴ	実習	2	90	通年					90	
			小計		20	900		45	0	360	0	495	0
			分野小計		54	1,800		165	300	720	60	555	0
58	選択必須分野	選択分野	口腔機能管理学	講義	2	30	後期				30		
59			専門職連携演習	演習	1	30	前期					30	
60			歯科衛生学の統合と実践	演習	2	60	通年					60	
61			総合歯科医学セミナー	講義	2	30	後期						30
			小計		7	150		0	0	0	30	90	30
			分野小計		7	150		0	0	0	30	90	30
	授業形態別	講義	28	38	570	-	255	135		45	105	30	
		演習	28	35	1,050	-	90	360	360	60	180	0	
		実習	5	20	900	-	45	0	360	0	495	0	
		総計		93	2,520	0	390	495	720	105	780	30	

歯科衛生学科
歯科衛生学科2年(2022年度生)15期生

カNo.	No.	科目	種別	前期 (回)	後期 (回)	通年 (回)	単位	授業担当者	ページ
9	1	歯科英語	講義		8		1	松田 珠生	1
28	2	歯科補綴学	演習	15			1	池田 優佳	2
29	3	口腔外科学・麻酔学	演習	15			1	細江 美知	3
31	4	歯科矯正学	演習	15			1	伊東 正志・鈴木 仁美	4
32	5	高齢者歯科学	演習	15			1	木村 年秀	5
33	6	障害者歯科学	演習	15			1	関 愛子・高盛 充仁 楠木 奈央	6
37	7	歯周病予防法Ⅱ	演習	15		○	1	森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子	7
38	8	歯周病予防法実習Ⅱ	演習	15	15	○	2	森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子	8
44	9	歯科保健指導論Ⅱ	演習	15			1	本田 里恵・森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子	10
45	10	歯科保健指導演習	演習		15		1	本田 里恵・森田 由紀 坪田 ゆかり・長谷川 悦子	11
49	11	歯科診療補助論Ⅱ	演習	30			2	長谷川 悦子・鈴木 仁美 坪田 ゆかり・森田 由紀	12
50	12	歯科診療補助演習	演習		15		1	森田 由紀・山西 波吟 長谷川 悦子・鈴木 仁美	14
51	13	臨床検査	演習	15			1	池田 優佳・近藤 ちづる 坪田 ゆかり・鈴木 仁美	15
54	14	臨地実習Ⅱ	実習	45時間		○	1	坪田 ゆかり・森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子	16
55	15	臨地実習Ⅲ	実習	315時間		○	7	坪田 ゆかり・森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子	17
58	16	口腔機能管理学	講義		30		2	坪田 ゆかり・本田 里恵	18
		合計		165	83		25		

※上記は変更になることもあります。

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科英語	歯科衛生学科/2年次	2023年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	松田 珠生
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 歯科衛生学に関連する外国語のうち代表的なものを列挙できる。 2. 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。 3. 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	・自己紹介の表現・クラスルーム英語	
2	診療室での英会話 歯科単語	・歯科単語(歯科医療に携わる者)	
3		・歯科英語・単語 ・「Passport」・Would you like AorB? ・「Passport」・Would you like some～?	
4		・歯科英語 ・単語復習	
5		・「Passport」・Could I have some～? ・国名・都市名の言い方	
6		・感想を言う表現 ・How was your～?	
7		・歯科英語 ・新出単語	
8		・歯科英語 ・新出単語	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する
[参考テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・配布プリント ・萌文書林 「歯科英語の練習帳」		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 60% 2) 授業態度(学習に主体的に参加すること) : 30% 3) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
歯科補綴学	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	池田 優佳 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。 【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科補綴学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 歯列の形態と位置的關係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。 2. 補綴装置の種類と適応を説明できる。 3. 支台装置とポンティックの選択、特徴および製作方法を概説できる。 4. 可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。 5. 補綴治療の臨床ステップとおよび技工操作を概説できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科補綴治療の基礎 歯科補綴の概要	1)補綴とは	<ul style="list-style-type: none"> ・補綴歯科治療の目的 ・クラウン、ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯、インプラント ・特殊な口腔内装置
2		2)歯の欠損に伴う生理的变化 3)補綴装置の種類と適応	
3	補綴治療の基礎知識	・歯列と咬合	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合平面・フランクフルト平面 ・カンペル平面・前頭面・矢状面・水平面 ・下顎安静位・中心咬合位・咬合嵌合位
4	補綴歯科治療における検査	1)補綴治療における検査の種類と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内検査、画像検査、咬合と顎口腔機能の検査
5	クラウン・ブリッジ治療	1)クラウン・ブリッジ治療の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全部被覆冠、一部被覆冠 ・ポンティック・支台装置・連結部 ・患者への説明と指導 ・CAD/CAMクラウン、ブリッジ
6		・治療の流れと歯科衛生の役割 ・クラウン、ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応	
7	有床義歯治療	1)全部床義歯治療の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モデリングコンパウンド、個人トレー、筋圧形成
8		2)全部床義歯治療の流れ	
9		・医療面接、検査、治療計画、前処置、概形印象 ・精密印象、咬合採得、試適、装着、調整	
10	インプラント治療	・患者への説明と指導	<ul style="list-style-type: none"> ・モデリングコンパウンド、個人トレー、筋圧形成 ・フェイスポートランスファー、ゴシックアーチ、ろう義歯 ・チェックバイト、人工歯配列 ・義歯の着脱、清掃、メンテナンス ・フラビーガム、リライン、リベース ・クラスプ、アタッチメント ・レスト、フック、スパー、連結子 ・フレームワーク
11		3)部分床義歯治療の概要と流れ	
12		・部分床義歯の分類と構成要素 ・精密印象、咬合採得、試適、装着、調整 ・患者への説明と指導、トラブルとその対応	
13	インプラント治療	4)インプラント治療の概要と流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・アバットメント、コーピング、デジタルソリューション
14		・インプラントの構成、前処置、術式、上部構造とメンテナンス、患者への説明と清掃、トラブルとその対応	
15	補綴治療における器材の管理	5)特殊な口腔内装置を用いる治療 6)補綴歯科治療における器材 ・器具、器材別滅菌、消毒、洗浄、保管	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチエイド ・スポーツマウスガード
		事前学習	
		次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔外科学・麻酔学	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	細江 美知 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病態、診断法および治療法を理解する。 【実務経験有】細江 美知: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔外科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔・顎顔面領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。 2. 先天異常と発育異常の病態と治療法を概説できる。 3. 各種口腔粘膜疾患の特徴と治療法を概説できる。 4. 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の特徴と治療法を概説できる。 5. 口腔・顎顔面領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と特徴および治療法を概説できる。 6. 抜歯・口腔外科小手術の手順を説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	顎・口腔粘膜疾患と 口腔外科	1)1章 口腔外科の概要 2)2章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 3)3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害 4)4章 口腔粘膜の病変 ・口腔粘膜に見られる病的所見 ・病態の理解と類似疾患との鑑別要点 ・口腔に原発する粘膜疾患とその他の疾患に伴う口腔粘膜疾患 5)5章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6)6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 7)7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 ・歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍の特徴と分類 8)8章 唾液腺疾患 ・口腔乾燥症 9)9章 口腔領域の神経疾患 ・顎口腔の知覚神経と運動神経	・口腔病変と全身疾患 ・口腔領域の先天異常・変形・口唇裂・口蓋裂 ・軟組織の損傷 ・歯および歯槽の損傷、顎骨骨折 ・ウイルス性疾患 ・口腔カンジダ症 ・顎骨、周囲組織の炎症 ・顎骨に発生する嚢胞 ・軟組織に発生する嚢胞 ・腫瘍の分類 ・エプーリス ・唾液と唾液腺 ・唾液腺疾患 ・バレーの3圧痛点 ・神経麻痺・痙攣 ★理解度確認小テスト ・抜歯、切開、排膿、歯槽骨形成、埋伏歯抜歯
12 13 14 15	歯科治療と歯科麻酔	1)1章 歯科麻酔と患者管理 2)2章 局所麻酔 ・局所麻酔の種類、歯科用局所麻酔薬の特徴、局所的偶発症 3)3章 精神鎮静法 4)4章 全身麻酔 5)5章 救急蘇生法	・verrillのサイン ★理解度確認小テスト
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科矯正学	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回(DH4回)/15回	1単位(30時間)	必須	伊東 正志・鈴木 仁美(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の診断および治療法を理解する。</p> <p>【実務経験有】伊東 正志 : 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科矯正学に関する基礎知識を学生に教授する。 鈴木 仁美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに矯正歯科治療における歯科衛生業務を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯、歯列、咬合の役割と全身の関係を説明できる。 2. 不正咬合の種類を列挙できる。 3. 不正咬合の原因と障害を把握し、矯正治療の目的を説明できる。 4. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。 5. 不正咬合に適した装置を識別し、その構造、機能を説明できる。 6. 矯正治療に用いる器具、器材とその取扱いについて説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科矯正治療の概要 I 編1章	1) 歯科矯正学と歯科矯正治療の目的 2) 歯科矯正治療の需要と目的と必要性	・ベネフィット、リスク ・顎の発育
2	成長・発育 I 編2章	1) 頭部・顎・顔面の成長発育 2) 顎の成長発育	・顔面の成長発育
3	正常咬合と不正咬合 I 編3章	1) 正常咬合 2) 不正咬合	・正常咬合 成立の条件と種類 ・不正咬合 歯の位置の異常
4		3) 不正咬合の分類・頻度 4) 不正咬合の原因と予防	歯列弓形態の異常 上下歯列弓関係の異常
5	矯正歯科診断 矯正歯科治療と力	1) 矯正歯科治療における診断と必要な検査 2) 症例分析	・インフォームドコンセント ・形態検査、画像検査、機能検査
6	一矯正力・顎整形力・保定	1) 歯の移動と固定 2) 歯の移動様式	・適切な矯正力 ・歯の移動様式
7	矯正装置 I 編6章	1) 矯正装置の種類 2) 自然保定と機械保定	・舌側弧線装置 ・マルチブラケット装置
8	上下顎の前後関係の不調和 上下顎の垂直関係の不調和	1) アングルの分類	・顎外固定装置 ・床矯正装置
9	II 編1章・2章 成人矯正	1) 過蓋咬合・開咬	・機械的矯正装置 ・歯列弓拡大装置
10	口腔顎顔面の形態異常と変形 歯の埋伏と歯の異常	1) 補助的・包括的矯正歯科治療 2) 成人矯正歯科治療の実際	・保定装置
11	矯正歯科治療時のトラブルへの対応 健康保険が適用される矯正治療	1) 口唇・口蓋裂・先天異常・顎変形症	埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯
12	III 編矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割		※12～15コマは歯科衛生士が担当
13		1) 齶蝕、歯肉炎、歯周疾患、歯根吸収、顎関節症 2) アレルギー、トラブルへの対応	
14			・プレイヤー(鉗子)の種類
15	矯正治療に使用する 器材とその取り扱い方	1) 主な矯正用器具とその取り扱い 2) 主な矯正材料とその使用方法	事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢者歯科学	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	木村 年秀 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。 【実務経験有】木村 年秀: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに高齢者歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化と口腔の加齢変化について説明できる。 2. 高齢者とのコミュニケーションにおいて配慮すべき点について説明できる。 3. 要介護高齢者の身体疾患と口腔疾患について説明できる。 4. 高齢者歯科における医療安全について説明できる。 5. 器質的・機能的口腔ケアについて説明できる。 6. 高齢者の摂食・嚥下機能と障害について説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	加齢による身体的・ 精神的変化	1) 加齢に伴う身体的機能の変化	・高齢者に多い全身疾患と口腔の関係
2		2) 高齢者の精神・心理的变化	・老化、うつ、せん妄
3		3) 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患	・悪性腫瘍、脳血管障害、心臓病、肺炎、パーキンソン病、認知症、高血圧症、糖尿病
4	高齢者の状態の把握		・根面う蝕、歯周病、トゥース・ウェア
5		1) 高齢者の生活機能の評価	・咬合、義歯、口腔カンジダ症、扁平苔癬
6		2) 高齢者歯科と臨床検査	・生活、ADL評価
7		3) 高齢者の栄養状態	・バイタルサイン、血液検査
8		4) 高齢者の薬剤服用	・栄養スクリーニング、栄養摂取方法
9	口腔のケア	1) 高齢者に対する口腔のケア	・薬物の影響、反応性の変化、副作用
10		2) 有病高齢者への口腔のケア	・高齢者の特徴
11		3) 要介護高齢者への口腔のケア	・虚血性心疾患、脳血管疾患、化学放射線療法
12	摂食・嚥下 リハビリテーション	1) 高齢者のリハビリテーションの概要	・高血圧、糖尿病、気管挿管
13		2) 摂食・嚥下の評価と対応	・国際障害分類、国際生活機能分類
14		3) 誤嚥性肺炎の予防のための訓練	・スクリーニングテスト
15	高齢者にかかわる 医療と介護	4) 在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション	・誤嚥性肺炎、嚥下訓練
15		5) 介護施設における摂食嚥下リハビリテーション	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「高齢者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
障害者歯科学	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30時間)	必 須	関 愛子・高盛 充仁・楠木 奈央 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 歯科衛生業務を行うために必要な障害者(児)の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。</p> <p>【実務経験有】関 愛子・高盛 充仁: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに障害者歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。 楠木 奈央: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに障害者歯科治療における歯科衛生業務について学生に教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者(児)の概要を述べることができる。 2. 障害者(児)の全身的特徴と歯科的特徴を理解し、歯科保健医療の留意点を述べる。 3. 障害者(児)の歯科治療について説明できる。 4. 障害者(児)の歯科における医療安全について説明できる。 5. 障害者(児)の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	障害の概念	1) 歯科医療におけるスペシャルニーズ	・障害の分類
2		2) ノーマライゼーションとバリアフリー	・ノーマライゼーション、バリアフリー
3		3) 精神発達・心理的発達と行動障害	・精神遅滞(染色体異常)
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	2) 運動障害	・広汎性発達障害、ADHD、LD、脳性麻痺
5		3) 感覚障害	・筋ジストロフィー、脊髄損傷、関節リウマチ、脳血管障害、ALS
6		4) 音声言語障害	・知覚障害、聴覚障害
7		5) 精神および行動の障害	・統合失調症、うつ病、てんかん、認知症、摂食障害
8		1) コミュニケーションの方法	・脱感作法、モデリング法、カウント法、フラッシュ法、オペラント条件づけ、トークンエコノミー、レスポンスコスト法、タイムアウト法、ボイスコントロール
9	摂食嚥下リハビリテーション	2) 行動療法	・鎮静法、全身麻酔
10		3) 体動のコントロール	・摂食嚥下障害の評価法
11		4) 薬物的行動調整法	・スクリーニングテスト
12	健康支援と口腔衛生管理	5) 摂食・嚥下障害への対処法	・摂食5期、摂食嚥下障害と口腔管理、栄養管理
13		1) 障害者本人や介護者が行う口腔のケア	※12～15コマは歯科衛生士が担当 ・器質的口腔ケア、機能的口腔ケア
14	地域における障害者歯科	2) 専門的口腔ケア	
15		3) 特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理	
		4) リスク評価と安全管理	
		1) 障害者歯科と地域医療連携	
		2) 保健・医療・福祉のネットワーク	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「障害者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法Ⅱ(前期)	歯科衛生学科/2年次	2023年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30時間)	必 須	森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】森田 由紀・横井 敦子・鈴木 仁美・長谷川 悦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プローブの種類と操作方法が説明できる。 2. 歯・歯肉・口腔の検査ができる。 3. 超音波スケーラー、エアスケーラーを操作できる。 4. 歯面清掃、歯面研磨ができる。 5. 臨地実習における基礎技術が習得できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	オリエンテーション	1) 授業の流れと目標 2) 歯周病の進行	
2	口腔内診査 (歯式・プロービング)	1) 歯周検査の種類と内容 ・マネキン実習(復習)	<ul style="list-style-type: none"> ・動揺度、コンタクトの検査 ・根分岐部の検査 ・精密検査の項目
3		2) 歯周精密検査の記載	
4		3) 対象者の情報を整理する	
5	シクルスケーラー	4) PTC、PMTc	<ul style="list-style-type: none"> ・PTC相互100%術者磨き(OHI,OHI-S) ・プロービング ・基本の3運動 ・ポジションと姿勢
6		1) シクルスケーラーの操作 (全顎) ・マネキン実習	
7	歯面研磨	1) 歯面研磨の目的(復習) 2) 歯面研磨の術式(復習) (全顎) ・マネキン実習	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科機器の取り扱い ・臨床における注意事項 ・ポジションと姿勢 ・固定点
8			
9	パワースケーラーの 基礎知識		<ul style="list-style-type: none"> ・超音波スケーラー、エアスケーラー ・フェザータッチ ・机上演習
10	超音波スケーラーの 基本操作		
11	超音波スケーラーの マネキン実習		
12			<ul style="list-style-type: none"> ・適正角度 ・操作留意点 ・把持の仕方 ・固定、力、角度、動かし方 <p style="text-align: right;">★実技試験</p>
13	歯面清掃器の操作と 基礎知識	1) 歯面清掃器とは	<ul style="list-style-type: none"> ・適応症と禁忌症 ・機器の取り扱いと操作方法 ・患者への配慮 ・清掃方法
14	歯面清掃器の基本操作	1) ユニットマネキンでの歯面清掃器操作 ・ユニットマネキン実習	
15			
[使用テキスト]			事前学習
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 「歯周病学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・プリント 			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 「歯周病学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・プリント 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% <ul style="list-style-type: none"> ・確認試験(筆記)に合格した者が実技試験を受験できる ・実技試験に合格した者が以後の相互実習に参加することができる ・詳細な評価項目は評価基準表にて示す 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病予防法実習Ⅱ(前期)	歯科衛生学科/2年次	2023年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回/30回	1単位/2単位(60時間)	必須	森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】森田 由紀・横井 敦子・鈴木 仁美・長谷川 悦子:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プローブ操作が口腔内で実施できる。 2. 歯・歯肉・口腔の検査が口腔内で実施できる。 3. 超音波スケーラー、エアスケーラーを操作できる。 4. 歯面清掃、歯面研磨を口腔内で実施できる。 5. 臨地実習における基本的な口腔内診査の流れが説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	1) 授業の流れと目標 2) 歯式、プロービング ・マネキン実習(復習)	
2	口腔内観察と口腔内診査の相互実習	1) 口腔内診査 ・相互実習	・動揺度、コンタクトの検査
3		2) 歯周検査の種類と内容 3) 歯周精密検査の記載	・根分岐部の検査 ・精密検査の項目
4		4) 対象者の情報を整理する	★実技チェック
5	シクルスケーラーの相互実習	1) シクルスケーラーの操作(上下前歯部)	・ポジションと姿勢
6		2) シクルスケーラーの操作(左右臼歯部)	・固定点 ・基本の3運動
7	PTC、PMTCの相互実習	1) PTC	・染色PTC100%磨き
8		2) PMTC	・OHI,OHI-S
9			・PMTC全顎(2ペースト)
10	超音波スケーラーの相互実習	1) 口腔内での超音波スケーラー操作(下顎前歯部)	・フェザータッチ
11		(上顎前歯部)	・留意点の理解
12		(右側臼歯部) (左側臼歯部)	・適正角度 ・操作留意点 ・把持の仕方 ・固定、力、角度、動かし方
13	歯面清掃器の相互実習	1) 口腔内での歯面清掃器の操作	★実技チェック
14			・安全な器械操作 ・患者への配慮を行う、患者の心理 ・歯面研磨(1ペースト)
15			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 「歯周病学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・プリント		1) 実技評価	: 40%
		2) 実習・態度評価	: 50%
		3) 出席率	: 10%
		・実技チェックに合格した者が以後の相互実習に参加することができる ・詳細な評価項目は評価基準表にて示す	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法実習Ⅱ(後期)	歯科衛生学科/2年次	2023年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回/30回	1単位/2単位(60時間)	必須	森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】森田 由紀・横井 敦子・鈴木 仁美・長谷川 悦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔内写真撮影5枚法の必要性が説明でき、撮影することができる。 2. 6点法にて全顎の歯周精密検査ができる。 3. 歯ブラシ、その他の清掃用具を正しく用いてPTCができる。 4. 各キュレットスケーラーの違いを理解し植立模型上で操作できる。 5. キュレットスケーラーのシャープニングができる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	口腔内写真	1) 口腔内写真撮影 ・相互実習	・口腔内写真5枚法 ★実技チェック
2			
3	プロービング シクルスケーリング	1) プロービング全顎 2) シクルスケーリング (下顎前歯)	・動揺度、コンタクト検査 ・精密検査 ・基本の3運動 ・固定点、ポジション、姿勢 ・染色PTC100%磨き ・歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシの 使い方
4			
5	PTC相互実習		
6			
7			
8	キュレットスケーラーの 操作法	1) 各キュレットスケーラーの基礎知識	・グレーシーとユニバーサルの違いとそれぞれの特徴 ・キュレットスケーラーの目的 ・操作角度、挿入方法、側方圧 ・スケーリングとルートプレーニングの違い ★実技チェック
9			
10			
11	キュレットスケーラーの シャープニング方法	2) 机上実習(植立模型) (上下顎前歯部) (左右側臼歯部)	・小臼歯、大臼歯の形態と注意すべき点 ・操作角度 ・刃部を確実に歯面にあてる ・適正角度、原型の形
12			
13	キュレットスケーラーの シャープニング方法	3) 植立模型での歯石除去 (上下顎前歯部) (上下顎臼歯部)	・マネキン実習
14			
15			事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 「歯周病学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・プリント 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% <ul style="list-style-type: none"> ・実技チェックに合格した者が以後の相互実習に参加することができる ・詳細な評価項目は評価基準表にて示す 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅱ	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	本田 里恵・森田 由紀・横井 敦子・鈴木 仁美・長谷川 悦子(務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>[実務経験有]本田 里恵・森田 由紀・横井 敦子・鈴木 仁美・長谷川 悦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 2. 口腔清掃方法の選択と指導ができる。 3. リスクに応じた口腔衛生指導ができる。 4. 各ライフステージ別の特徴および歯科保健行動を説明できる。 5. 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生過程 歯科口腔保健の推進に向けて 各ライフステージにおける保健指導方法の実践	1) 歯科衛生過程の概要	・思考と行動のプロセス ・クリティカルシンキング ・臨床推論 ・ニード理論、歯科衛生ニーズ ・主訴、現病歴、全身の既往歴、家族歴 ・書面化の必要性 ・症例展開 ・デンタルフロスの指導方法 F字型・P字型 ・タフトブラシの指導方法 ・歯間ブラシの指導方法 ・フッ化物塗布 ・PTC ・仕上げ磨き ・交換期の口腔衛生指導法 ・補綴物に応じた補助用具の指導法 ・禁煙指導 ・舌ブラシの指導方法 ・義歯の着脱方法 ・義歯ブラシの指導法
2		2) 歯科衛生過程の各構成要素	
3		3) 歯科衛生過程を進めるうえで重要な考え方	
4		4) 歯科衛生士の視点による問題解決	
5		1) 妊産婦期 ※食生活指導含む	
6		2) 乳児期	
7		3) 幼児期	
8			
9		4) 学齢期	
10		5) 成人期・青年期	
11			
12		6) 老年期	
13		1) 症例1 義歯管理	
14		2) 症例2 粘膜ケア	
15		3) 症例3 矯正装置	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導演習	歯科衛生学科/2年次	2023年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	本田 里恵・森田 由紀 坪田 ゆかり・長谷川 悦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵・森田 由紀・坪田 ゆかり・長谷川 悦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 2. 各ライフステージの特徴が説明できる。 3. 各ライフステージに応じた歯科疾患予防のための保健指導ができる。 4. 各ライフステージに応じたQOLと口腔機能向上のための保健指導ができる。 5. 各ライフステージに応じた食育支援および禁煙指導と支援ができる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	ライフステージに応じた 歯科保健指導 (歯科疾患の予防)	1) 乳児期および学齢期	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔の特徴 ・健全な歯・顎骨の成長・育成 ・外傷 ・母体栄養および胎児発育のための食育 ・歯口清掃用具 ・禁煙支援 ・口腔機能獲得に影響を及ぼす習癖 ・口腔機能に関わる病気や症状とその対応、指導 ・咀嚼機能の維持・向上の重要性 ・誤嚥性肺炎の予防 ・食育指導 ・誤嚥・窒息防止のための安全性に配慮した食べ方の指導 ・PDCAサイクル ・歯の健康力 ・指導案 ・教育媒体
2		2) 妊産婦期	
3		3) 成人期および高齢期	
4	ライフステージに応じた 歯科保健指導 (QOL・口腔機能維持向上)	1) 乳幼児期および学齢期	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能獲得に影響を及ぼす習癖 ・口腔機能に関わる病気や症状とその対応、指導 ・咀嚼機能の維持・向上の重要性 ・誤嚥性肺炎の予防 ・食育指導 ・誤嚥・窒息防止のための安全性に配慮した食べ方の指導 ・PDCAサイクル ・歯の健康力 ・指導案 ・教育媒体
5		2) 成人期および高齢期	
6			
7	要介護高齢者体験・ 車いすの取り扱い	3) ライフステージに応じた食育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥・窒息防止のための安全性に配慮した食べ方の指導 ・PDCAサイクル ・歯の健康力 ・指導案 ・教育媒体
8			
9	歯科衛生教育活動	1) 健康教育の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥・窒息防止のための安全性に配慮した食べ方の指導 ・PDCAサイクル ・歯の健康力 ・指導案 ・教育媒体
10		2) 健康教育の進め方	
11		3) 学校保健(小学校)における歯科保健指導	
12		4) シナリオ作成	
13		5) シナリオ作成	
14		6) 学校歯科医、養護教諭との連携	
15		7) シナリオ、教育計画の見直し	
16	8) ワークシートの作成		
17	9) 指導後評価	次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する	
18	10) 自己評価		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版「歯科診療補助論」第2版 ・歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 ・歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」 ・ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅱ	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位(60時間)	必須	長谷川 悦子・鈴木 仁美 坪田 ゆかり・森田 由紀(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>様々なライフステージにおける歯科医療に対応するため、各歯科治療時の補助において必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。</p> <p>【実務経験有】長谷川 悦子・鈴木 仁美・坪田 ゆかり・森田 由紀: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 保存治療時の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 補綴治療時の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 矯正歯科治療の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 小児歯科治療の診療補助に必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科治療における術式の復習	1) 診断と検査	・各種検査内容
2		2) 臨床現場での歯科診療の流れ 3) 口腔診査相互実習	
3	歯内療法時の診療補助	1) 歯髄処置の流れ	・生活歯髄切断法、直接抜髄法 ・根管治療、根管充填 ★確認テスト
4		2) 歯内療法トレーセッティング	
5	保存修復時の診療補助	1) 歯間分離	・タッフルマイヤー型リテーナー ・ウェッジ、セパレーター、マトリクスバンド
6		2) 隔壁マネキン実習 3) ラバーダム実習	
7		3) 歯髄保護	・水酸化カルシウム製剤 ・窩洞形成 ・接着前処理
8		4) 直接修復の流れ	
9		5) コンポジットレジン充填実習(V級窩洞)	・充填 ・研磨
10		6) グラスアイオノマー充填実習 7) 間接修復の流れ	
11		8) 精密印象実習	・シリコーンゴム連合印象法 ・寒天アルジネート連合印象法
12		9) 仮封・合着	
13	補綴治療時の診療補助	1) 補綴治療の検査	・仮封材 ・合着材 ★確認テスト
14		2) クラウン・ブリッジの治療(生活歯)	
15		3) クラウンブリッジの治療(失活歯)	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 「歯周病学」第2版 歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 実習・実技評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16		4)全部床義歯、部分床義歯の治療の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックバイト ・平行測定、咬合音測定 ・外形印象採得、精密印象採得 ・咬合採得、顎間関係の記録
17		5)義歯装着患者指導	
18		6)技工関連の管理	
19			
20	口腔外科治療時の診療補助	1)問診・観察・検査	
21		2)術前管理	
22		3)抜歯の器材	
23		4)口腔外科手術	
24	小児歯科治療時の診療補助	5)インプラント	
25		1)診療補助と歯科衛生	
26	矯正治療時の診療補助	2)保存修復	<ul style="list-style-type: none"> ・根管治療、根管充填 ・印象採得、画像検査 ・バンド装着器具
27		3)外科的処置	
28	歯周外科治療時の診療補助	4)咬合誘導	
29		1)検査の補助	
30		2)顔面規格写真	<ul style="list-style-type: none"> ★確認テスト
		3)矯正歯科用器具・材料の準備と取り扱い	
		4)可撤式装置・固定式装置	
		1)歯肉切除術	
		2)歯周ポケット搔爬術	
		3)新付着術	
		4)フラップ手術	
		5)歯周組織再生誘導法	
		6)遊離歯肉移植術	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助演習	歯科衛生学科/2年次	2023年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	森田 由紀・山西 波吟 長谷川 悦子・鈴木 仁美(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 専門的な歯科診療の補助のために必要な基本的知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】森田 由紀・山西 波吟・長谷川 悦子・鈴木 仁美:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な全身疾患とその対応が説明できる。。 2. 配慮を要する全身疾患患者、大規模災害者の対応ができる。 3. 周術期、歯科訪問診療時の口腔衛生管理が説明できる。 4. 前歯及び臼歯の暫間被覆冠を作製できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	(診)Ⅱ編1章主な全身疾患とその対応	1) 主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器系疾患 ・脳血管疾患 ・呼吸器系疾患 ・代謝性疾患 ・肝疾患 ・腎疾患 ・血液疾患 ・免疫・膠原病 ・感染症 ・神経系・精神疾患 ・フェーズごとの歯科保健指導 ・災害時に発生する歯科的問題 ・保険制度における周術期口腔機能管理
2		2) 口腔に現れる特徴	
3		3) 歯科診療上の注意点	
4		4) 投与される薬と副作用・注意事項	
5	(予/保)Ⅳ編2章配慮を要する者への歯科衛生介入	1) 災害と避難施設	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系・精神疾患 ・フェーズごとの歯科保健指導 ・災害時に発生する歯科的問題
6		2) 災害時の歯科保健医療	
7	大規模災害被災者	1) 周術期における口腔機能管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保険制度における周術期口腔機能管理
8			
9	歯科訪問診療	1) 歯科訪問の診療補助	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科訪問診療の流れ
10			
11	暫間被覆冠作製実習	1) 前歯	<p>事前学習</p> <p>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</p>
12			
13		2) 臼歯	
14			
15			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版 ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・歯科衛生学シリーズ「臨床検査」 ・歯科衛生士のための 全身疾患ハンドブック 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 60% 2) 提出物の評価 : 30% 3) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態	
臨床検査	歯科衛生学科/2年次	2023年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習	
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者	
15回	1単位 (30 時間)	必須	池田 優佳・近藤 ちづる 坪田 ゆかり・鈴木 仁美(実務経験有)	
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>患者の全体的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査(口腔内検査、画像検査)および全身の一般検査の意義と関連を理解する。</p> <p>【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科医学全般に関する基礎知識、関連性を学生に教授する。</p> <p>近藤 ちづる・坪田 ゆかり・鈴木 仁美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科医学全般に関する基礎知識、関連性を学生に教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査の種類と目的を理解し、検査値の評価の重要性を説明できる。 2. 放射線の生物学的影響とエックス線画像の形成原理を概説できる。 3. 口内法およびパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。 4. 口内法およびパノラマエックス線解剖の概要を表記できる。 5. バイタルサインの測定が実施できる。 				
[授 業 の 内 容]				
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	
1	臨床検査	1) 臨床検査とは/生体検査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床検査の必要性 ・ 検査の種類 ・ 体温、脈拍、血圧、心機能、肺機能、筋電図、脳波 ・ 血液を用いる検査 ・ 血液凝固、線溶系検査 ・ 生化学検査 ・ 血液型検査 ・ 口臭の国際分類と検査法 ・ 味覚検査、金属アレルギー検査 ・ エックス線の発生と物質の相互作用 ・ 放射線障害の分類 ・ エックス線撮影装置の種類 ・ エックス線フィルム ・ 放射線防護の実際 ・ デジタルエックス線システムの特徴 ・ 口内法の撮影方法 ・ 口外法の撮影方法 ・ パノラマエックス線撮影の位置づけ ・ パノラマエックス線撮影の読影 ・ 口内法の位置づけ、二等分法 ・ 口内法エックス線撮影の正常像 ・ 体温、脈拍、血圧、SpO₂の測定 ・ 生体モニターの確認 	
2		2) 生体検査		
3		3) 検体検査		
4				
5		4) 口腔領域の臨床検査		
6		歯科放射線		1) 放射線とエックス線
7				2) 放射線の影響
8				3) 歯科用エックス線装置
9				4) エックス線画像の形成
10				5) 放射線の防護と管理
11				6) フィルム処理、デジタルエックス線システム
12				7) 撮影法(口外法・口内法)
13		8) 撮影法(口内法、口外法・正常像と病変)		
14	臨床検査の実際	9) パノラマエックス線撮影実習		
15		10) パノラマエックス線撮影の読影		
		11) 口内法撮影実習		
		12) 口内法エックス線写真の読影、まとめ		
		1) バイタルサインの測定		
			事前学習	
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生学シリーズ「臨床検査」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・ わかりやすい歯科放射線学第3版 学建書院 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 60% 2) 実習の取り組み、演習態度 : 30% 3) 出席率 : 10% 		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨地実習Ⅱ	歯科衛生学科/2年次	2023年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	1単位(45時間)	必須	坪田 ゆかり・森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり・森田 由紀・横井 敦子・鈴木 仁美・長谷川 悦子:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージ別の口腔健康管理ができるよう教授する。</p>			
[内 容 と 計 画]			
事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。(詳細については「実習要綱」を参照)			
ライフステージ	実習施設	実習目標	
1 乳幼児期	市町村保健センター	1. 地域保健活動の実際が把握できる 2. 地域保健活動における多職種の役割を知る 3. 地域保健活動における歯科衛生士の役割を知る 4. 地域保健活動における歯科衛生士と多職種の連携を知る 5. 母子保健法における市町村が実施する母子保健事業がわかる 6. カンファレンスの必要性を理解した発言ができる	
2 学齢期	小学校	1. 学齢期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健活動を理解する 2. 学齢期の身体や口腔機能の発達段階を理解する 3. 学齢期の健康教育に必要な情報を収集できる 4. 学齢期の健康教育の計画立案ができる 5. 学齢期の健康教育の内容方法が説明できる 6. 小学校における学齢期の健康教育が実践できる	
3 老年期	高齢者施設	1. 高齢者施設における要介護高齢者に関わる他職種の業務内容を理解する 2. 高齢者施設における要介護高齢者の生活機能を知る 3. 高齢者施設における口腔健康管理において時間や方法、道具などがわかる 4. カンファレンスの必要性を理解した発言ができる	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論第2版」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」 「小児歯科」「保健生態学第3版」 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」「障害者歯科学」 「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」第2版		※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 実習への参加状況および態度、日々の実習日誌、レポート等から総合的に評価する (詳細については臨地実習評価表に準ずる)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
臨地実習Ⅲ	歯科衛生学科/2年次	2023年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
	7単位 (315時間)	必 須	坪田 ゆかり・森田 由紀・横井 敦子 鈴木 仁美・長谷川 悦子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり・森田 由紀・横井 敦子・鈴木 仁美・長谷川 悦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科衛生分野における知識、技術および態度を身につけることができるよう教授する。</p>			
[内 容 と 計 画]			
事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。(詳細については「実習要綱」を参照)			
ライフステージ	実習施設	実習目標	
1 配慮を要する者	総合病院	1. 総合病院の特殊性を知る 2. 安全管理の重要性を知る 3. 周術期の口腔健康管理について知る 4. 口腔健康管理・摂食嚥下の支援・特殊環境下での 歯科診療から歯科衛生士の役割を知る	
2 乳幼児～老年期	歯科診療所	1. 歯科医師、歯科衛生士からの指示内容を踏まえた対応ができる 2. 対象者の守秘義務を遵守できる 3. 医療安全に配慮した行動ができる 4. 器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる (詳細は「実習要綱」を参照)	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論第2版」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」 「小児歯科」「保健生態学第3版」 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」「障害者歯科学」 「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」第2版		※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 1) 臨床実習指導者からの評価 : 60% 2) レポート内容および態度 : 40% (詳細については評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔機能管理学	歯科衛生学科/2年次	2023年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	坪田 ゆかり・本田 里恵(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を修得する。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり・本田 里恵: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達と加齢に伴う細胞、組織、器官の形態的および機能的な変化を概説できる。 2. 口腔機能リハビリテーションを概説できる。 3. 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。 4. 口腔機能訓練(間接訓練、直接訓練)ができる。 5. 各ライフステージ別の口腔機能管理ができる。 			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション	1)摂食機能療法の実施 2)生涯を通じて	・摂食機能療法 ・第三の医学
2	リハビリテーションと摂食嚥下	1)リハビリテーション医学・医療総論 2)摂食嚥下リハビリテーションの実際と役割	・地域包括ケアシステム、地域連携 ・摂食嚥下のプロセス、口腔健康管理
3	摂食嚥下機能のメカニズム	1)摂食嚥下び関わる構造(解剖)	・口腔、咽頭、喉頭、鼻腔の構造
4		2)摂食嚥下び関わる構造(機能)	・摂食運動、嚥下運動
5		3)発達期の摂食嚥下機能	・発達期の口腔形態、機能の定型発達 ・離乳期、乳児期の機能発達
6	咬合および咀嚼機能の管理と評価	1)咬合と咀嚼機能 2)咀嚼の評価と管理	・下顎運動と咬合様式 ・咀嚼機能の評価法
7		3)咬合・咀嚼と全身	・オーラルフレイル、口腔機能低下症
8	栄養評価	1)栄養スクリーニングと栄養アセスメント	・栄養スクリーニング ・栄養アセスメント
9	摂食嚥下の評価	1)歯科衛生士が行うスクリーニングテストと観察評価	・発達期の摂食嚥下機能の評価
10	摂食嚥下の評価		・精密検査
11	摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理	1)口腔衛生管理の実際	・口腔衛生管理実施前の評価 ・姿勢調整
12			・口腔衛生管理の方法 ・口腔衛生管理中のリスク管理
13	摂食嚥下訓練	1)摂食嚥下障害に対する訓練計画立案	・摂食嚥下障害に対する訓練
14		2)摂食嚥下障害に対する食事指導 3)各病態に対する訓練法とその選択	・食形態 ・基礎訓練(間接訓練)の選択と実施 ・摂食訓練(直接訓練)の選択と実施
15	事例検討	1)摂食嚥下障害に関する事例	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 ・歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」 ・歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 ・歯科衛生学シリーズ「臨床検査」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

2023年度
授業進度計画

2023年4月1日 発行

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校
